

有機質肥料を用いたトレビス栽培の実証（川内村）

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業
小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証
研究課題名 有機栽培に向けた西洋野菜の実証（川内村）
担当者 根本知明

I 新技術の解説

1 要旨

川内村では、地域振興作物として、阿武隈中山間地域の気象条件を活かした西洋野菜の栽培が広がりつつある。その中で、西洋野菜の高付加価値化に向けて、有機栽培を検討している。そこで、トレビスの有機質肥料を用いた栽培が可能であることを実証した。

- (1) 有機質肥料を用いてトレビスを栽培すると、4月上旬に播種し、5月上旬に定植することで、7月中旬に収穫できた（図1）。
- (2) 有機栽培に向けて、基肥として有機質肥料である有機アグレット 666 と収多くんを施用し、化学合成農薬は使用せずに栽培した（表1）。
- (3) 収穫物は、結球重 451g、横径 12.2cm となり、10a 換算収量は 1,003kg と福島県有機栽培推進技術資料のトレビスと同等であった（表2、図2）。

2 期待される効果

- (1) 川内村における西洋野菜の生産振興に活用できる。

3 活用上の留意点

- (1) 有機栽培に向けて、「有機農産物の日本農林規格」に準じて栽培した。
- (2) 本実証は、川内村の標高 425m の畑地における実証である。
- (3) ほ場は、地域で活用されている管理機（マルチ付き）を用いて設置した。栽植様式は、畝間 120cm、畝幅 70cm、株間 30cm とした。
- (4) 品種は、「TSGI011」を用いた。7月下旬以降は抽苔や腐敗病が発生したため、降雨の多い年は作業計画を早めるなどの対策が必要と考えられた（表1）。

II 具体的データ等

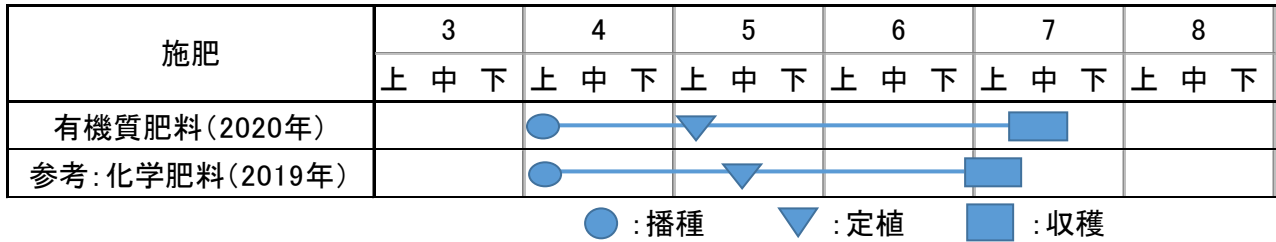


図1 有機質肥料を用いたトレビスの栽培暦

表1 使用した有機質肥料

資材名	施肥量 (kg/10a)	成分量(kg/10a)				参考価格 (円/袋)
		窒素	リン酸	カリ	その他	
有機アグレット666	230	13.8	13.8	13.8	苦土:2.3	3,000
収多くん	40	1.1	1.6	0.7	-	2,800

注) 有機栽培で使用する有機質肥料は、各認証機関の承認を得てください。

表2 有機質肥料を用いたトレビスの収量

結球重 (g)	葉色	横径 (cm)	欠株率 (%)	10a換算収量 (kg)
451	4.9	12.2	20	1,003

注1) 葉色は、着色程度により5段階評価とした(0~20%=1、20~40%=2、40~60%=3、60~80%=4、80~100%=5)。

注2) 欠株は、腐敗によるもの。

注3) 換算収量: 結球重 × 栽植密度(2,800株) × 欠株率として試算(参考値: 1,137kg、福島県有機栽培推進技術資料)



図2 有機質肥料を用いて栽培したトレビス

III その他

1 執筆者

根本知明

2 実施期間

令和2年度

3 主な参考文献・資料

「福島県有機栽培推進技術資料」平成28年、福島県

「みやぎ発信型新規野菜の安定生産技術(トレビス)」平成25年度、宮城県農業・園芸総合研究所

「阿武隈地域におけるトレビスの二期どり栽培(川内村)」令和元年度、浜地域農業再生研究センター